



てをあらおう

第17号(2020年春号)
発行日 2020年5月13日
信州大学教職支援センター

Shinshu University
Center for the Teaching Profession

教職支援センター ニュースレター

巻頭言

【教育の情報化再考】

新型コロナウイルス感染防止ということで、にわかに脚光を浴びたのが、ネットを利用した授業である。学校教育の現場は、オンラインの授業が進まないメディア等から指摘された。同時に、オンラインでの授業が、万能のようにとらえられている課題も見え隠れする。

確かに、国の施策として過去20年以上にわたって、教育の情報化が推し進められてきたが、なかなか進まずという課題はある。なぜか。ハード面の財政的負担の問題もあるが、根幹は教育の情報化に関わる教師のスイッチングコストが高いことに尽きる。多様な教育方法を駆使して、子供たちの実態に即して最適の教育環境を提供し、最大の効果を上げようと努力している教育現場であるが、学習とデジタル技術との相性を理解し切れていないのが実際であろう。

本年度から小学校で本格実施の新学習指導要領の下では、デジタル教科書が使用可能となり、教育環境が著しく変わり、どのようなツールを・どのような場面で・どのような内容で・どのように扱うのが、子供たちが主体となる学習活動のあり方として望ましいのかを、改めて意識した教育実践が求められている。日々の教育実践では、子供たちのレディネスに基づき、ヘルバルトの教育的タクトではないが、子供たちの顔色を見ながら臨機応変に対応していくことが求められる。当然、子供たちも、友達や先生の顔色をうかがいながら、発言したり活動をしたりしている。

ところが最近では、「顔色」のみならず「声色」が理解できない子供たちが増えてきているようだ。学校現場が、対面にこだわってきた実態と情報化に対するスイッチングコストの高さが、そこに見え隠れしているような気がする。知識を伝達するだけなら、オンライン授業でも十分な機能を果たせるであろうが、その先はどうするか…。教育基本法における教育目的は、「人格の完成」である。ピンチはチャンスとよく言われる。改めて、教育の情報化のあり方を問うていきたい。

小山茂喜（教職支援センター教授）



シリーズ 活躍する卒業生

教職支援センターの前身の教職教育部が発足して10年が経ち、多くの卒業生が教育現場で活躍しています。毎回テーマを決めて、卒業生の活躍を紹介します。

～ vol.12 新潟県教員編 ～

燕市立小池中学校 国語科 教諭

五十嵐 美佳 先生

人文学部 人文学科 平成30年度卒業



大学を卒業し、新潟県の中学校教員として採用されてから1年が経ちました。現在私は、燕市の小池中学校で2年生の担任をしています。担任は2年目の今年初めて務めることになりました。1年間仕事をしてきて私が感じるのは、学校は「具体性」がとても求められるところだ、ということです。例えば授業では、展開の仕方や板書計画、活動方法など細かな部分まで考える必要があります。給食指導では、おかわりの仕方、片づけ方まで、ルールをつくります。また清掃指導では、誰がどんな役割をいつまでするのか、はっきりと示さないと生徒は動けません。生徒から何か聞かれたとき、明確に答えられなければ、「この先生大丈夫かな。」と不安にさせてしまいます。1年目は副担任で、授業を通して生徒と関わるが多かったので、具体性がそれほど大切だとは思っていませんでした。しかし、今年度担任になり、新年度の準備において、学活、給食、清掃等のために多くの準備物を用意したり、学活の内容の段取りをしたりする中で、本当に細かく具体策を決めておく必要があることが分かりました。担任として初めての仕事は、どれも学年部の先生方の手助けなしには、やっていけませんでした。近くにいるのはベテランの先生ばかりなので、何かあったらどんなことでも相談するように心がけています。

今年度は1週間遅れて新学期が始まりました。予定していた始業式の3日前に市内でコロナウイルスの感染者が確認されたためです。新学期がスタートしてからは、感染対策を行いながら、学級開き、入学式、学活等、大変だけど充実した時間を過ごしていました。しかし、5日経って私自身も新しい環境に慣れはじめた昨日、緊急事態宣言が全国に拡大され、再び市内一斉の臨時休校となってしまいました。5月上旬までの長期の休校ですが、生徒は学年ごとに分散して登校日が決まっています。限られた登校日の中、限られた授業数で、教科書を進めていきます。



私はあまり面白くない人間ですが、授業中、「笑い」がとれたら心の中でガッツポーズ。授業でも大切にしている言葉のやりとりを通して、生徒が笑顔になると、自分も嬉しくなります。先行きの見えない不安定な状況ですが、こんな時こそ学校に来て良かったと生徒に思ってもらえるよう研鑽を積んでいきたいです。

十日町市立中里中学校

新井 健 先生

理学部 地質科学科 平成24年度卒業



現在私は、新潟県の十日町市立中里中学校で理科を教えながら、1学年の主任をしています。大学卒業後、筑波大学付属聴覚特別支援学校の中学部で3年間経験を積みました。ほぼ経験のない特別支援の世界に触れ、多くの熱意ある先生方から日々ご指導をいただきました。その後、やはり元々の夢である理科教育の専門性を高めたいと思い、公立学校の採用試験を受け直し、新潟県で採用となりました。

新潟県1年目は、特別支援学校との違いや初担任などで戸惑うこともありましたが、一緒に着任した同期にも恵まれ、なんとか乗り越えることができました。1年目で担任した1年生を、苦勞しながらもそのまま持ち上がり、卒業させることができたことは、感動や嬉しさといった言葉では表しきれない一生の宝です。

教職に携わり8年目となった今、教員をするうえで最も大事なことは、生徒との信頼関係の構築だと思っています。それは決して、生徒に迎合することでも、威厳を保とうとして自分を必要以上に大きく見せることでもありません。もちろん、反対に熱血と称して頭ごなしに怒鳴り、自分を押しつけることでもありません。信頼関係ができて初めて、様々な「指導」が通るようになります。また個人的には、信頼関係ができると教員という職業は一気に面白くなると思います。

生徒からの信頼は、日々の関わりの中で教員と生徒がお互いを知り、本当に少しずつ構築されるものです。「人間力」を発揮し、自分の人となりを伝えながら、休み時間や授業前後のコミュニケーションを積極的にとるようにしています。生徒指導でも雑談でも、大切なのは、生徒の話を「引き出す」ことと「よく聞く」ことです。聞いてみると、意外と生徒は色々考えています。どんなに正しいことを言っても、自分のことを聞いてくれない先生のことを生徒は信頼しません。ぜひ「役者」になり、様々な方法で生徒に接することができるよう、引き出しを増やして行ってください。

しかし実際、始めはどうすべきか全然分かりません。そんなときは、遠慮せずに上司や先輩を頼ります。どんどん聞きます。そしてしっかり考え、行動します。失敗もたくさんすると思います。大切なのは、それをいかに反省し、次に生かせるかです。私を含めた若手も、大学生の皆さんも、未熟が当たり前です。たくさん考え、行動し、経験値を得てレベルアップしていきましょう。皆さんの今後のご活躍を期待しています。



教職支援センター3～4月の動き

- 教職教育委員会学芸員養成課程実施部会(3/9)、
- 教職教育委員会(3/10)、○生坂村教育委員会との連絡会議(3/24)、
- CST養成プログラム実施委員会(3/13)、
- 新入生教職ガイダンス(※HP上で実施)、
- 高年次生教職ガイダンス(※HP上で実施)



新入生ガイダンス

【教職課程科目のさらなる充実を目指して——授業見学実践と報告】

教職を目指す学生たちに、より充実したカリキュラムを提供したい——そのような思いから、人文学部では、教職科目のうち教科指導法特論Ⅰに、信州大学教育学部附属松本中学校のご協力のもと、学校現場での授業見学を取り入れています。

学生には、教科指導案の作成・それに基づく模擬授業を経て、教壇に立つための力をつけるべく努力してもらっています。しかし、実際の授業風景を見学し、現場の先生方の工夫や努力、また生徒と向き合う姿に接することは、受講生たちにとって大きな刺激と学びになっているようです。

筆者が担当する国語科指導法特論Ⅱでは、2019年度後期は11月5日と21日の2回にわたり、見学を実施させていただきました。

見学前に、見学授業で扱われる教材について予習し、現場に向かいます。見学の場では、専用の見学シート(図1)を使い、授業の時間配分や流れを記録、すなわち「指導案の再現」を行います。さらに板書の記録・気づいたことのメモを持ち帰り、この記録に基づいてディスカッションを行う、という流れです。ディスカッションでは、学生たちが「自分ならどう授業展開するか」「この部分は、先生の工夫に感銘を受けた」など、自由にかつ真剣に議論を繰り広げます。見学後の議論には、授業1限分(90分)の時間を確保していますが、意見交換が白熱し、時間超過することもしばしばです。

受講生からは、特に「生徒たちを、どう授業に集中させるか」「どうやって生徒の興味を喚起するか」を現場で見学できることが大きな学びになるとの声が聞かれます。現場のご協力あつての授業内容を受講生に提供できることに大きな喜びを感じるとともに、松本中学校に、この場をお借りして、あつく御礼申し上げます。

授業見学記録

日付: 年 月 日 () 学号/氏名: _____

授業時間: 時 分 ~ 時 分 () 担当教員氏名: _____

授業記録	板書	板書の複製・転写	授業メモ

(人文学部准教授 速水 香織)

【図1】



編集後記

今年は寂しい新年度ですね。しばらくは対面授業もできない見込みですが、教員免許取得を目指す学生の皆さんには、ぜひ毎号の「活躍する卒業生」を読んでモチベーションを維持してほしいです。今号では、人文の速水先生に附属中学校での授業見学の様子をご報告いただきました。こうした学びの時間が1日も早く戻ってきてくれることを心待ちにしています。(広報担当 河野桃子)

